



はばたけ、知性。

学校法人樟蔭学園 中長期計画 (平成27年度～平成31年度)



※正門からの風景 平成27年3月3日撮影

平成27年6月4日 経営戦略本部



1. 中長期の策定にあたって	3
2. 学校法人樟蔭学園 中長期計画（H27～H31）Grand Design	4
3. [1] 学園ミッションの実現	5
[2] 教育の質保証	7
[3] ガバナンス・経営基盤の強化	9
[4] 学園をとりまく皆様へ	11

【中長期計画の策定にあたって】



理事長 森 眞太郎

本学（学校法人樟蔭学園）は、平成29年度に学園創立100周年を迎える伝統ある女子学園である。創立以来、その根源である建学の精神を大切に守り続け、これまでに学園各校で延べ10万人以上の卒業生を輩出する等、その長い歴史を通してわが国の女子教育の発展に大きく貢献してきた。

しかしながら、近年の少子化に伴う就学人口の急激な減少をはじめとして、教育業界をめぐる大きな環境変化により、本学がおかれている状況は年々厳しさを増している。そのような中で、本学が今後も社会から必要とされる教育機関として生き残るためには、これまで以上のスピードで改革を進める必要があり、これらの改革を通して学生・生徒・園児に対する教育の質の保証を担保するとともに、経営の効率化による持続的かつ安定した財政基盤を確立しなければならない。つまりは、教育機能の強化、事務機能の強化、教員・職員の能力向上、施設設備の充実等の積極的な取り組みを通して、社会が求める高い水準の教育環境を整え、学生・生徒の満足度向上や出口保証を図ることによって持続的に学生・生徒数を確保することが求められている。そして、本学が永年培ってきた女子教育の伝統にこれらの新しい取り組みを融合させることにより、「高い知性」と「豊かな情操」を兼ね備えた社会に貢献する女性を育成するという、本学が掲げる創立以来の建学の精神を守り続けることが可能となる。

平成29年度には創立100周年という大きな節目を迎えるが、本学ではこの機会を新たな100年に向けた基盤を整備する機会と捉えている。周年記念事業としておこなう各種の取り組みを通して、教職員や在学生・卒業生等に対して改めて学園の歴史や建学の精神等の浸透を図り、学園への賛同者を増やしていくと共に、校舎や施設設備の充実をはじめとした教育環境の再整備により、長期的な未来へ向けた基盤の強化に取り組んでいく。

今回、本学では、更なる発展を遂げるための各種のプロジェクトと100周年への取り組みを含めた「樟蔭学園 中長期計画（平成27年度～31年度）」を策定した。今後は、この計画に基づいて学園の改革を推し進め、今後も永続的に社会から必要とされる教育機関としての地位を確固たるものとし、わが国の女子教育発展への一層の貢献を果たしていくものとする。

【 学校法人樟蔭学園 中長期計画 (H27～H31) Grand Design 】

建学の精神

充実した設備、優れた指導者、良好な教育環境を整えて、現代社会の進歩に対応し得る高い知性と豊かな情操を兼ね備えた女性の育成。

ミッション

樟蔭学園は建学の精神を継承し、女子教育を展開する教育機関としての存続と発展を目指す。創設以来、延べ10万人の卒業生が培ってきた樟蔭学園の建学の精神は、時代が変容しても根源となる精神は受け継がれていくものである。建学の精神を改めて教職員や在学生、卒業生等関係者全員の胸に刻み、広く社会に貢献する事を通して、その精神を広げていかなければならない。

教育目標

樟蔭学園は、永年培われてきた女子教育の「伝統の知」を基礎に、新しい時代の動きを的確にとらえる事ができる新しい知力を養い、女性の中に眠る高い能力を十二分に開花させ、その力を発揮し、経済社会や地域経済の再生・活性化に大きく貢献できる女子教育を実践する。

中長期計画(H27～H31)

[1] 学園ミッションの 実現

これまでの伝統と文化を大切に、新たな時代に向けた未来に明るい展望を拓き、女子学園としての教育に対する社会からの要請に応え、信頼される学園づくりを目指します。

[2] 教育の質保証

樟蔭学園に在学する学生・生徒が、本学の教育の質に満足し、成長を自ら実感できる教育内容の整備を目指します。

[3] ガバナンス・経営 基盤の強化

学園の学生・生徒の定員充足ならびに財政基盤の健全化を達成し、学園の存続と発展する体制の確立を目指します。

[4] 学園をとりまく皆 様へ

学生・生徒、卒業生、教職員が、本学園に在籍・在職し、誇りと自信を持ってそれぞれの場で活動に当たることができる環境の整備を目指します。

[1] 学園ミッションの実現

これまでの伝統と文化を大切に、新たな時代に向けた未来に明るい展望を拓き、女子学園としての教育に対する社会からの要請に応え、信頼される学園づくりを目指します。

①学園に関わる全ての方の絆をさらに深めながら、創立 100 周年の節目をスタート地点として新たな100年へ向かう樟蔭学園

●新たな 100 年へ向けた小阪キャンパスリニューアル事業として「体育館（100 年会館）」「翔空館」「学生サポート会館 清志館」の建設、そして大学機能を小阪キャンパスへ集中することにより、教育の相乗効果を高めます。

（百周年記念事業本部）

●100 周年事業を通じて情報発信力を強化し、学園のブランド力を強化します。（百周年記念事業本部）

●「樟古館」をはじめとした樟蔭学園の歴史を集約した資料館の開設、周年記念誌の発行、100 周年を契機とした樟蔭学園のクレド（行動規範・行動指針）の制定等により樟蔭のアイデンティティを再確認します。

（百周年記念事業本部）

※樟古館：樟蔭学園創立時から残る木造建築物（登録有形文化財）

●記念式典、記念行事を開催します。（百周年記念事業本部）



学校法人樟蔭学園

100 周年記念事業の位置づけ



■体育館（100 年会館）

1 階にダンスや体操・卓球などに利用できるスペースを配置、2 階にはバスケットコート 2 面がとれる体育館兼講堂を配置、ステージ機能を持ち、イベントにも利用出来ます。



■学生サポート会館 清志館（せいしかん）

学生へのサポート機能と教室が集まる新校舎。明るく学習しやすい環境を整えた教室と、居心地の良い学生サポートスペースを整備しています。



■翔空館（しょうくうかん）

学園で最も高層となる 10 階建新校舎。学園だけでなく、地域のシンボルタワーとしての役割も担います。健康栄養学科の実験室・実習室、各研究室を配置。最上階には見晴らしの良い大教室を設けています。

②創設者 森平蔵から続く「高い知性」と「豊かな情操」を兼ね備えた社会に貢献できる女性の育成

- 人として、女性として社会を営む者としてのマナーを取得し、人との触れ合いや芸術鑑賞やスポーツを通じて高い感受性を養います。(大阪樟蔭女子大学)
- マナー改善のための学生参画型活動を支援し、樟蔭学園の情操教育を確立します。
(大阪樟蔭女子大学・樟蔭高等学校・大阪樟蔭女子大学附属幼稚園)
- 自ら学び、自ら考える力を養う総合的な学力を育みます。(樟蔭高等学校・樟蔭中学校)
- 自らの興味・関心を深め、能力・適性をさらに伸ばし、将来の目標を達成する力を育みます。(樟蔭高等学校・樟蔭中学校)
- 自らの判断に基づいた行動ができる自立性と、社会生活や学校生活における規範意識の涵養に努めるとともに、様々な教育活動を通し豊かな人間性を育みます。
(樟蔭高等学校・樟蔭中学校)

③学長及び校長主導で相互参加イベントや魅力あるカリキュラムを充実させ、特色ある中高一貫教育の学園へ

- 大阪樟蔭女子大学と樟蔭高等学校が連携した一貫教育のひとつとして、学芸学部ライフプランニング学科フードスタディコースと連携した樟蔭高等学校健康栄養コース、フードスタディ専科、学芸学部国際英語学科のネイティブ講師や樟蔭学園英語教育センターと連携した進学コース、言語文化専科を設置します。(大阪樟蔭女子大学・樟蔭高等学校)
- 児童学部児童学科、樟蔭高等学校児童教育コース、大阪樟蔭女子大学附属幼稚園が連携し、英語のできる教諭や保育士・幼稚園教諭を育成します。
(大阪樟蔭女子大学・樟蔭高等学校・大阪樟蔭女子大学附属幼稚園)
- 大阪樟蔭女子大学と樟蔭高等学校で単位認定制度を構築し、相互の連携を強化します。(大阪樟蔭女子大学・樟蔭高等学校)
- 一貫性のある教育カリキュラムの効果を最大限に生かし、学力向上と内部推薦による進学を強化します。
(大阪樟蔭女子大学・樟蔭高等学校・樟蔭中学校)



※1 健康栄養学部：2015年4月設置予定

※2 総合進学コース：2015年4月設置予定

[2] 教育の質保証

樟蔭学園に在学する学生・生徒が、本学の教育の質に満足し、成長を自ら実感できる教育内容の整備を目指します。

①各校が育成する学生・生徒、園児の資質・能力の向上とそれを実現する教育プログラムを検討し“教育の質保証”を実現

●学部学科の目的及び専門性を明確にし、時代に即したコース並びにカリキュラム等の編成を再検討することで、教育力の向上や学生の学修意識の向上を目指します。

(大阪樟蔭女子大学)

●学芸学部国際英語学科、学士課程教育センター、樟蔭学園英語教育センターの連携を強め、英語教育の学修支援体制を強化していきます。(大阪樟蔭女子大学)

●成果指標を設定し、就職戦線で自分の意思を伝えられるだけの言語力、表現力を身につけさせます。(大阪樟蔭女子大学)

●資格取得に向けた教育活動の充実と強化を図り、合格実績をさらに向上させます。

(大阪樟蔭女子大学)

●学生一人ひとりが充実した大学生活を送ることができるように、学生サポート会館清志館 1 階にサポートポートスクエア(※サポートスクエア・イメージ図 p.8)を開設するとともに、「サークル推奨制度」を導入し、クラブ活動や同好会を活性化、学外との共同活動を推進します。(大阪樟蔭女子大学)

●ICT 教育を活用した英語教育を充実させ、卒業までに英語検定 2 級の全員合格を目指します。(樟蔭高等学校・樟蔭中学校) ※ICT 教育：iPad や電子黒板を用いた教育

●各コースで目標の設定と達成への計画づくりをおこない、「生徒、それぞれの進路希望の 100%実現」を目指します。(樟蔭高等学校・樟蔭中学校)

●5 領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現)を踏まえながら、5 年後・10 年後の成長を見据えた保育が実践できるよう、子どものために労力を惜しまず、子ども一人ひとりを見つめた保育をおこなうことを目指します。(大阪樟蔭女子大学附属幼稚園)

②学生、生徒、園児の視点で、教員の指導力や教育力を向上 (FD)

●FD・SD 活動推進委員会でロードマップを作成し、組織的な FD 活動の実質化を実現します。(大阪樟蔭女子大学)

●教職員が相互に授業参観ができる体制を構築します。(大阪樟蔭女子大学)

●学生に対して有益な企業情報(求人・業界・OG)の提供とキャリアセンターの機能強化(※学生サポートスクエア・イメージ図 p.8)による就職決定力の向上を目指します。

(大阪樟蔭女子大学)

●教職員の協力体制を強化し、卒業生のキャリアアップと就業支援プログラムの開発をおこないます。(大阪樟蔭女子大学)

●ICT教育を活用した授業の実践、オリジナルの教育方法や教材の研究開発、導入します。(樟蔭高等学校・樟蔭中学校)

●教員の目標設定シートの作成及び面談を実施します。(樟蔭高等学校・樟蔭中学校)

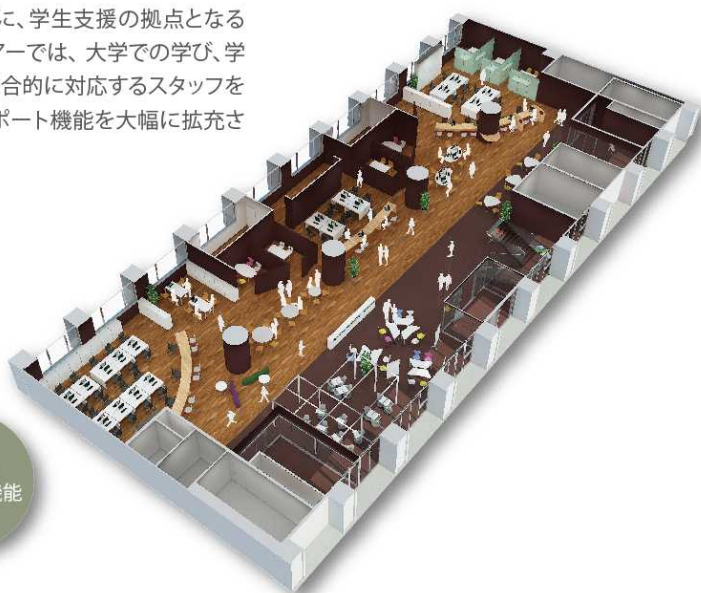
●教員研修の実施により、教員の資質向上に取り組みます。

(樟蔭高等学校・樟蔭中学校)

●子ども一人ひとりを見つめ、保護者と教員のチームワークを生かした保育計画(育児)を実践します。(大阪樟蔭女子大学附属幼稚園)

※サポートスクエア

学生サポート会館「清志館」の1階に、学生支援の拠点となる「サポートスクエア」を開設。このフロアでは、大学での学び、学生生活、卒業後の進路などについて総合的に対応するスタッフを配置し、ソフト・ハード両面で学生サポート機能を大幅に拡充させます。



③基礎学力を身につけさせ、学力向上を推進(深く考え豊かに感じる知性と感性の融合を体現する女性の育成)

●生徒の学習到達度と各コースの目標に対する達成度を把握しながら「高い知性」を備えた女子教育を目指します。(樟蔭高等学校・樟蔭中学校)

●文化祭、海外語学研修等の校外学習、グループ学習やICT教育を活用した魅力ある授業運営を通じて教育の充実を推進します。(樟蔭高等学校・樟蔭中学校)

●カリキュラムや教科の再点検、生徒の学習到達度の確認と個別アドバイスによって難関大学への進学者数を増加させます。(樟蔭高等学校・樟蔭中学校)

[3] ガバナンス・経営基盤の強化

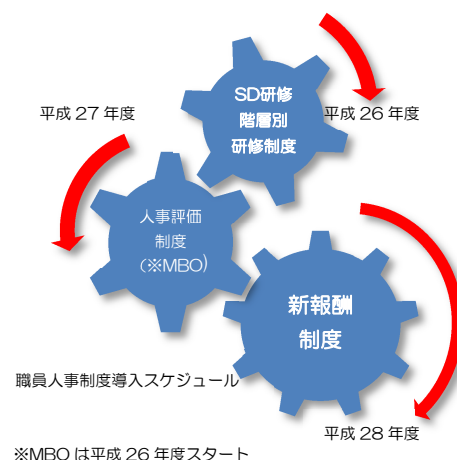
学園の学生・生徒の定員充足ならびに財政基盤の健全化を達成し、学園の存続と発展する体制の確立を目指します。

①理事長のリーダーシップのもと、学園ミッションの実現（ガバナンスの強化）

- 大学執行部（部館長）の制度変更をおこない（副学長制度の変更、学科長の選考方法の変更）、学長がリーダーシップを発揮していきます。（大阪樟蔭女子大学）
- 継続的な自己点検評価の実施と今後の大学運営におけるPDCAサイクルを実施します。（大阪樟蔭女子大学）
- 第一期の第三者評価の検証の下、次期第三者評価受審に向けての受審体制を整えます。（大阪樟蔭女子大学）
- ミドルリーダーを中心とした教職員が参画意識を持つことのできる組織を目指します。（樟蔭高等学校・樟蔭中学校）
- 教員の授業の持ち時間を再検討し、標準法による教員人数に留意した人事に努めます。（樟蔭高等学校・樟蔭中学校）
- ガバナンス強化に向けて経営企画室（IR 機能）の設置、事務分掌・事務機能の明確化を図ります。（法人）

②マネジメント力を強化し、活力のみなぎる学園を実現

- 職員階層別研修体系の見直し、自己啓発型の研修の設置、受講補助制度等を導入しSD活動を推進します。（法人）
- 教育の質や教育力の向上並びに学生の学ぶ意欲の向上につながるような教員評価制度を導入します。（大阪樟蔭女子大学・法人）
- 職員に対する目標管理制度（MBO）、それをを用いた人事評価制度を導入し、経営管理能力を高めるだけでなく、職員の能力向上を促進します。（法人）
- 年功型賃金制度に潜む構造的問題を解消し、貢献に見合った賃金支払いルールを備えた新報酬制度を確立します。（法人）
- 専任教職員、非常勤教職員の適正な人員管理を徹底します。（大阪樟蔭女子大学・樟蔭高等学校・樟蔭中学校・法人）
- ITを活用した効率的な組織運用を進めていきます。（法人）



●カリキュラムマップを用いて授業科目の厳選や適正なクラスサイズによる効果的なカリキュラムを構築します。(大阪樟蔭女子大学)

③財政基盤の健全化を図るために、学生・生徒の募集力を強化

●オープンキャンパスや入試相談会の更なる充実と担当職員の説明力の向上を図ります。(大阪樟蔭女子大学)

●キャンパス統合及び学部、学科改組に向けた入試広報の展開や100周年記念事業を活用し、入学、募集定員の100%充足を実現します。(大阪樟蔭女子大学)

●スムーズな合否判定や正確性を期した入試体制を確立します。(大阪樟蔭女子大学)

●時代の要望にあったコースを充実させることで、選抜特進コース、総合進学コース、身体表現コース合わせて100名の中学入学者、高校外部入学者220名を目指します。
(樟蔭高等学校・樟蔭中学校)

●地域に向けて園庭を開放、また、「SHOIN 根っこを育てようプロジェクト」を通して大阪樟蔭女子大学附属幼稚園の魅力やコンセプトを地域に広めていきます。
(大阪樟蔭女子大学附属幼稚園)

④収入に見合った支出構造の実現、メリハリのある予算編成を確保

●厳しい財政状況の中、将来に向けたより健全な学園運営をおこなうため、平成21年10月に策定された「中長期計画(平成22年～平成26年度)」の柱となる財務改善計画(収入に見合った支出をおこなうことにより収支改善を図る)は「中長期計画(平成27年～平成31年度)」においても、引き続き推進し、安定した財政基盤の確立と収支バランスを確保します。(法人)

●閑屋キャンパス等の学園所有の不動産の再考、整理をおこなっていきます。(法人)

●業務委託契約の見直し、派遣契約の一本化をおこなうことによって経費の削減を図ります。(法人)

[4] 学園をとりまく皆様へ

学生・生徒、卒業生、教職員が、本学園に在籍・在職し、誇りと自信を持ってそれぞれの場で活動に当たることができ、環境の整備を目指します。

①地域社会と連携・協働する体制を構築

- 学長をトップとした全学的な地域連携推進体制を構築し、「地域に根差し、学び貢献する」(地域志向型)大学として成長を遂げます。(大阪樟蔭女子大学)
- 地域社会の活性化を目指し、大学のシーズで地域の課題を解決する地域連携センター(仮称)を設置します。(大阪樟蔭女子大学)
- 校外活動の推進、地域イベントに参加できる学生を増やしていくことで地域貢献をおこなっていきます。(樟蔭高等学校・樟蔭中学校)

②同窓会(卒業生)との連携及び相互協力関係の強化

- 卒業生が中心となって開催する同窓会(学年会・クラス会)等へのサポートを強化します。(百周年記念事業本部)
- 卒業生の名簿管理業務を学園に移管し、就職先等を含めたデータベースを構築し、同窓生とのつながりを強化します。(百周年記念事業本部)

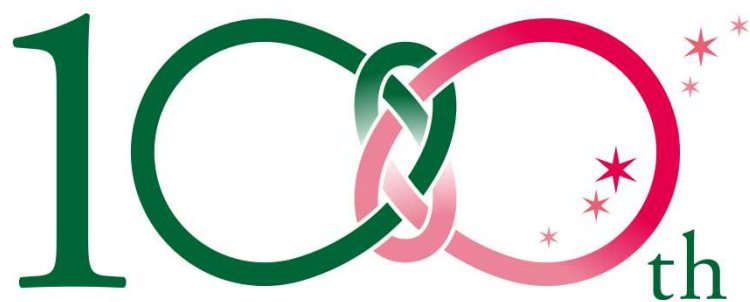
③学生・生徒、園児のアメニティと安全に配慮した環境の整備

- 耐震改修をはじめとした、キャンパスの更なる安心・安全・バリアフリー対策・エコロジー化等の整備を推進します。(法人)
- 学生の利用する福利厚生施設(食堂、購買施設、ラウンジ、学生サロン)の整備を推進します。(大阪樟蔭女子大学)
- 下宿生への支援を強化します。(大阪樟蔭女子大学)
- 教室やトイレの改修、更なる施設の充実を図ります。(樟蔭高等学校・樟蔭中学校)
- 園庭の整備、魅力的な遊具を導入、学園林を利用したツリーハウスを建設します。(大阪樟蔭女子大学附属幼稚園)
- 設備改修等を実施し、学生・生徒、園児の安心・安全に努めます。(大阪樟蔭女子大学・樟蔭高等学校・樟蔭中学校・大阪樟蔭女子大学附属幼稚園)

④働きやすい職場をめざします。

- 次世代育成支援対策推進法に従って労働時間を見直し、子育て支援を行います。(法人)

樟蔭学園は創立100周年



Anniversary in 2017

学校法人 樟蔭学園

経営戦略本部・中長期計画策定部会

〒577-8550 東大阪市菱屋西4-2-26

(窓口：総務課 06-6723-8397)